

幼児と環境における「散歩」の計画と実施

Planning and Implementation of “Walking” in the Area of “Environment” in Course of Study for Kindergarten and Nursery

横峯 孝昭, 藤川 和也, 松崎 康弘

Takaaki Yokomine, Kazunari Fujikawa, Yasuhiro Matsuzaki

鹿児島女子短期大学

2023年5月～7月にかけて「幼児と環境」の授業の中で、園外保育「散歩」を立案・実施・振り返りを行った試みについて考察したものである。さらにその中で、学生に経験させその中で子どもたちに気づいてほしいことについて、それを気付いてもらうためにどのような援助を行うかについて考えさせた内容についての報告である。今回はどちらかという保育計画の立案と実施後の情報共有に重きを置いたが、今後は、他の領域の講義内容も踏まえて様々な体験や興味関心につなげる実践となるように授業計画を練っていききたい。

Keywords : walking activity, pre-school education and environment, using ICT

キーワード : 散歩活動, 幼児と環境, ICT 活用

1. はじめに

本校は、横峯・松崎の担当する幼児と環境で2023年5～7月に行った模擬保育として園外保育「散歩」の計画・実施・振り返りを行った授業実践について考察したものである。この授業実践を行った背景には、本学の学生が幼稚園教育実習Ⅰ、保育所実習Ⅰを経験した時期であり、特に保育所実習Ⅰでは実習中の散歩を経験した学生が半数はいること、これらを加味して、保育の立案・実施・振り返りを経験する機会を作りたいと考えた点が挙げられる。また、「散歩」に関する授業は、文部科学省の委託研究「幼稚園教諭の養成のあり方に関する調査」の内、「領域に関する専門的事項」のモデルカリキュラムにある「幼児と環境」のモデルカリキュラムの「考えられる〈授業モデル〉」で、以下のように提案されている。(幼稚園教諭養成課程をどう構成するか～モデルカリキュラムに基づく提案～p.102)

4) 大学の構内や近隣を散歩して、幼児が発見する身近な自然や標識・文字、情報・施設についてグループで話し合ったり、地図を作製したり等、学生たちが改めて身近にある自然や標識・文字に関心を持てる活動を行う。

このことから、幼児教育の教員を養成する段階で、学生がその意義を実践的に学び、お互いに意見交換する機会を作ることには有益であると思われる。実際の計画・実施・振り返りで学生はどのようなことを学び、それらは領域「環境」のねらいや内容にどのように関連しているのか、他の領域との関連はどう考えているのか、学生のレポートから考察する。

2. 授業実践の詳細

鹿児島女子短期大学で開講(担当)した「幼児と環境」において、散歩の意義の講義(1回分)、散歩計画の立案(1回分)、計画に基づく散歩の実施(模擬保育, 1回分)、散歩中の振り返り及び散歩マップの作製(1回分)の計4回分を行うことにより散歩の意義を学生自身が実体験を伴って実践的に学べるよう計画を立てた。

2-1. 散歩の意義(講義)

散歩の意義として①園外で季節や自然を感じられること、②思いっきり体を動かして遊べること、③気分転換ができること、④地域の人や環境と触れ合えること、⑤交通ルールを理解できること、⑥社会性を身につけられることを柱とした講義を1回分行った。また、実際の散歩前日、散歩当日、散歩後に確認すべきこと、子どもたちとのかかわり方についても併せて講義を行った。

2-2. 散歩の立案

図1の散歩計画シートを学生に配布し、散歩対象の年齢、日時、人数を想定し、散歩のねらい、配慮事項を考えつつ、30～60分程度のルートを想定して計画を立案させた。

2-3. 散歩の実際

2回目の講義を踏まえて、下見という名目でそのルート子どもたちと散歩している想定で実際に歩かせ、計画の不備がないか体験させた。その際表図2のレポート課題を出し、後日記録として提出させた。

2-4. 散歩の振り返り

図1散歩計画、図2レポート課題を持ち寄り、子どもたちに散歩ルートの中で気づいてほしいと思ったことを他の学生にも短大近辺の環境として知ってもらいたいという思いで、1クラス8名ずつに分かれ、散歩マップの作成を行った。通常紙媒体で持ち寄った写真を張り付けて話し合うが、今回はTeamsを用いて、その中で持ち寄った画像を地図に張り付けて、学生が子どもに気づいてほしい環境があった場所を示すことでお互いの共通理解を図れるか試みた。

3. 提出された学生の「散歩」のねらい

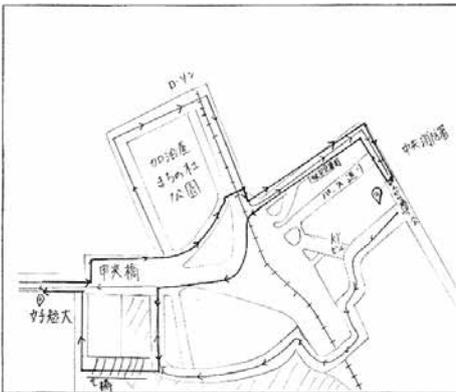


図3. 散歩ルート図

1グループ2～4名（引率用教員として妥当と思う人数と学生には指示したところ大体この人数になった）に分かれさせたところ、4講義で合計75グループに分かれた。子どもの総低年齢を3～5歳とし、総低年齢をもとにグループごとに図1の散歩計画シートに学生にフリーハンドで散歩ルートの地図を書かせた（図3）。さらに散歩のねらいを考え計画の立案とした。学生の考えたねらいについては以下のとおりである（一部掲載）。大きく分類すると、①自然への気づき、興味関心、②体を動かす気持ちよさを感じる、③地域とのかかわり、④社会生活とのかかわり（交通ルールを含む）、⑤協調性の5種類に分けられると考えそれを示している。

○3歳児想定

- ・ 様々なものを見たり触ったりすることで新しい発見や驚きなどを体験する。公園で固定遊具の安全な遊びを知りルールを守り楽しんで遊ぶ。②
- ・ 川の魚を見つけたり、すれ違う地域の人とかかわったりして自然や人などへの興味関心を持つ。保育者や友達と一緒に遊具や用具を用い意識的に体を動かすことを楽しむ。①②③
- ・ 簡単な交通ルールを守り、季節や自然に興味関心を持てるようにする。①④
- ・ 保育者や友達と一緒に遊具や用具を使い意欲的に身体を動かすことを楽しむ。落ちてははっぱを拾ったりすれ違う地域の人とかかわったりし自然や人などに興味関心を持つ。①②③
- ・ 散歩全体を通して交通ルールや集団行動を確認し、公園で遊び身体を動かす。また、川沿いを通り、植物や生物に触れ自然を感じ地域の人たちとかかわりを持つこと。①②③④⑤
- ・ 自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。身体を十分に動かし明るく伸び伸びと充実感を味わう。信号の色の意味など交通ルールに関心を持つ。①②④
- ・ 自然や乗り物など可周りの環境に親しみを持つ。散歩を通して交通ルールを覚える。①④
- ・ 体験を通して横断歩道の正しいわたり方を知る。公園で体を動かして遊ぶことを楽しんだり、木々や川などの自然に触れたりすることを楽しむ。①②④
- ・ 自然とかかわったり、道具で遊んだりすることで探求心や豊かな感性を育むとともに、人とかかわりや周囲の環境から社会への理解を促す。①②③

○4歳児想定

- ・ 川や花など自然の物・音に触れ豊かな心を育む。①

- ・自然や乗り物など外の世界の様々なものに触れ合う中で、視野を広げ感受性を育む。たくさんの園児と交流し、コミュニケーション能力や様々なことに気遣う心を育てる。①⑤
- ・園外で地域の人や環境に触れ合い、季節や自然を感じる。①③
- ・目的地で身体をたくさん動かして遊び健康な体を作る。新しい発見や驚きなどを体験する。②
- ・集団での横断歩道の渡り方を身に付け、地域の人とのかかわりを深める。また、今の時期の川や植物の状態を知る。①③④
- ・身体をたくさん動かして遊ぶ中で健康な体をつくり、また自然に触れ新しい発見や驚きなどを体験する。①②
- ・周囲の身近な環境に親しみ、自然を感じながら発見を楽しんだり、交通ルールを覚えたりする。①②
- ・散歩を通して交通ルールを守ったり、自然などの自然事象に関心を持ってほしい。①②
- ・季節や自然を感じたり、触れたりしながら感受性を豊かにする。教師や友達と広い空間で遊ぶ楽しさを知る。①②
- ・交通ルールを楽しく学ぶ（年長に向けて）自然に触れながら地域の温かみを感じる。①③④

○5歳児想定

- ・基本的な交通ルールを身に付け、地域の人や環境に触れ合う。①④
 - ・園外で季節や自然を感じる。思いっきり体を動かし遊ぶ。交通ルールを覚える。①②④
 - ・看板や史跡の文字等に興味関心を持つ。交通ルールを守り、季節の自然を発見し、友達同士で共有する。公園で色々な人たちがいることに気づき挨拶ができる。①④
 - ・自然に触れ身の回りの生き物の発見や美しさに気づき伝え合う楽しさを味わう。標識や文字に興味を持ち、どんな役割があるかについて関心を持つようにする。①
 - ・自然に触れて、大きさ、美しさ、不思議さに気づき、感動したことを伝えあう楽しさを味わう。乗り物やそこに働く人に興味を持ち地域に一層の関心を持つようにする。①③
 - ・身近な施設や職業に興味関心を持ち小学校へのイメージを膨らませる。自然と触れ合う。①③
 - ・雨水や水たまりなど身近な事象に触れながら梅雨の自然に興味を持つ。探求心を深めてたり、自然や生き物に触れ子どもの好奇心を刺激する。①
 - ・身近な自然環境と触れ合う中で、自分たちの生活との関係に気づく。①④
 - ・自然の音や感触に触れ関心を高めることで季節や事象の変化に気づくとともに道中の危険箇所や交通ルールを理解する。①④
 - ・交通ルールについて学ぶ。川の音や鳥の鳴き声などの自然の音に気づく。集団行動の大切さについて学ぶ。①④⑤
- 養成段階の学生のためねらいの表現については、まだ未熟な部分がありながらも、散歩によってどのようなねらいが立てられるか想定し表現していたと思われる。例えば5歳であれば小学校生活科との連携が出てくるので、「5歳児想定」の「(施設としての)小学校へのイメージを膨らませる」という学生の記述は評価できる一方で、「地域の人」の具体化として小学生との出会いを考えてほしい、と授業担当者としては考えている。また、講義内容と実際の学生の立てた散歩のねらいについての相関関係についても今後解析して今後の講義内容に反映させていきたいところである。

3. 散歩ルートにおける子どもたちに気づいてほしいことに関する考察

立案した計画をもとに、実際に子どもたちを引率して散歩することを想定しグループごとに散歩をさせた。その中で、子どもたちに気づいてほしい(発見してほしい)ことを1つ取り上げ、写真として記録し、なぜそれに気づいてほしい(発見してほしい)と思ったのか、そのために保育者としてどのような援助が可能かについて考察させた。学生たちが取り上げたものは表1のとおりである。(かっこの数字はその内容を取り上げた学生数である)

表1. 子どもたちに散歩で気づいてほしい（発見してほしい）と思った環境としてとりあげたもの

| | | | |
|----------|------------|-----------|-----------|
| 道路標識(17) | 落ち葉(2) | 川(26) | 公園の遊具(20) |
| ハト(7) | 蝶(2) | シロツメクサ(9) | 樹木(20) |
| 花壇(27) | キノコ(1) | 横断歩道(25) | 電柱(1) |
| マンホール(5) | 押しボタン信号(4) | 街並みの風景(3) | 路面電車(1) |
| 郷土資料(4) | アジサイ(3) | 消防署(1) | 小学校(5) |
| 空模様(1) | 陸橋(1) | 橋(1) | |

また、それらに気づいてほしい（発見してほしい）ためにどのような援助を行えるかについては以下のような内容が記載されていた。

- ・散歩の目的地だけに目を向けるだけでなく、散歩中の物に気づけるような言葉掛けをしたい。
- ・子どもたちが考えることができるような発問をしたい。
- ・交通ルールを再確認できるよう約束事を信号待ち等で確認する。
- ・散歩ルートの中で子どもが興味を示すものはあらかじめ調べておく。
- ・子どもの視線を気に掛ける。
- ・子どもの気づきに共感する。（子どもの発言をしっかり聞きつづやきや伝えようとしていることを拾う）
- ・歩くスピードも周りの物に目が向くように気を付けたい。

2年前期の科目ということ、今まで2回の実習・1年間の講義を通して学生たちが子どもたちとの視線、自発的な気付きというものが重要であるということを感じていることが伺えた。一方で踏み込んでレポートを分析していくと、学生が子どもたちに気づいてほしいことと散歩におけるねらいとの関連性が全く見られないレポートも散見することができ、そのあたりは講義を通して今後学生に考えさせたいと感じた。

4. 散歩マップ作製（ICT 機器を用いた）

保育者間で環境の情報共有という意味で、最後に散歩マップの作製をし、学生間で自分の気づきを他の学生と共有する場を1コマ分確保した。今までであれば、模造紙に、マップを書き、そこに気づいたことがらについて記載していくという方法が一般的であると思われるが、今回は Teams を用いて、ファイルを共有して PC 間で作業をすることで散歩マップを作成してみる試みをした。図4のように前もって Google マップを使用してパワーポイントで地図を準備してその中に持ち寄った画像を張り付けていった。PC で作業をしながら学生たちがそれぞれの気づきについての情報交換を行って見た1例が図5の散歩マップである。



図4. 散歩マップ作製のためのグループ分け

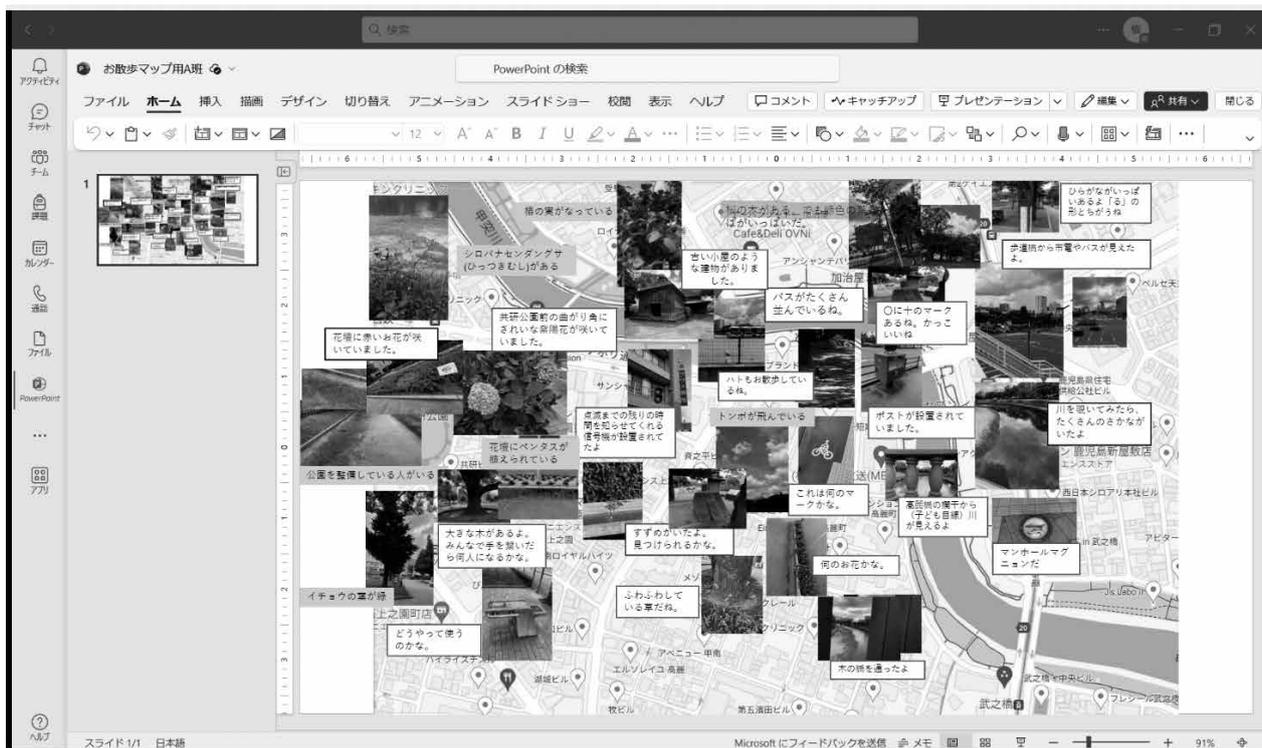


図5. 学生の作成した散歩マップ

今回は散歩ルートの記事までは困難と感じたこと、グループから1名を抽出して別のグループとの情報交換に主眼を置いたため、散歩ルートまでは記載していない。模造紙で記載するときのように学生間で色々な情報交換をしながら作業をしている様子が伺え、現場においてこのような情報共有のやり方もあるという一例を示せたのではないだろうか。作業人数や Teams の使い方や大学教員の方が慣れていない部分がありそのあたりは今後の講義で改善していきたい点である。

5. おわりに

学期末の授業アンケートの自由記述欄に学生の今回の講義に関するコメントがありそれを記載する。

- ・実際に散歩に行き子どもたちに興味を持ってほしいところを探すことが出来て良かった。
- ・散歩を通して、どのようなことを子どもに感じて欲しいかを自分で見つけることが出来たこと。
実際に計画を立てて散歩に行ってそれをまとめることをして、気をつけることやどこに目を向けたいか考えられた。
- ・実践をする機会が何度かあり、楽しく学ぶことができました。
- ・実際に散歩することでどんなことに気づいて欲しいのか、なぜこのルートにしたのか、これらを実際に考えてみることで、園活動で散歩をすることの楽しさを知ることが出来た。授業をもとに自分ならどうしたいか、どう思うか、など自分の意見や考えをレポートに書くことで授業をより理解することが出来た。
- ・ペアで散歩をして気づいたことをグループになって散歩マップを作ったり、環境に関連した音楽についてビデオを見て学んだりすることができて良かった。
- ・散歩など保育者になった際するので、どこに子どもたちに気をつけてほしいかや散歩をすることで身につけてほしいことなどを考える時間があつた所がとても良かったです！
- ・パワーポイントを用いて環境について学ぶことが出来て良かったです。個人的に印象に残っていることは、グループになって散歩コースを考えて実際に見たものなどを地図上に写真を貼り付けて紹介することが凄く楽しかったと思いました。
- ・実践をしながら詳しく理解を深めることが出来た。

学生の授業アンケートから今回のねらいについては最低限度達成できたのではないかと感じている。今回は散歩を立案・実施・振り返るというどちらかというと保育計画に焦点を当てた演習とそれに伴うレポート課題であったため、特に領域を環境に絞った内容にはあえてしなかったが、健康・言葉・人間関係・表現の内容を含むことができた内容となって

いたと感じている。菊池（2010）の散歩活動については「散歩活動は、園外保育の代表的なものであるが、主として徒歩での移動を通じて、事前事象や社会的事象に対して興味関心を向けさせる。加えて、散歩活動は、徒歩での移動を考えると領域健康、自然事象や社会的事象に対する評価を考えると領域言葉、事後の保育活動を考えると領域表現、集団活動や地域の人々との触れ合いを考えると領域人間環境に含まれる。」と述べているがまったくもってその通りだと感じている。今回も講義の内容を考えるにあたり、領域言葉の担当者である藤川を加えて領域の内容も加味した内容にできないかと考えて講義・レポート課題にもその内容を含ませてもらった。領域環境の演習ではあるが散歩を切り口に学生に色々と考えてもらいたいと考えており、他の領域の教員ともかかわりながら発展させていきたいと考えている。また今後は卒業生についても養成時期との散歩に関する考え方の変遷についても追うことを検討している。

謝辞

本研究をするにあたりご協力をいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。また、提出課題の使用を快諾くださった履修生の皆様にも感謝申し上げます。

引用文献

- 無藤隆代表保育教諭養成課程研究会（2017）「幼稚園教諭養成課程どう構成するか～モデルカリキュラムに基づく提案～」萌文書林 pp.100-103
- 菊池達夫（2010）「幼稚園・保育所における散歩活動の実践例とその特色」北翔大学短期大学部研究紀要48, pp.1-13
- 参考文献
- 厚生労働省 編「保育所保育指針」フレーベル館2017
- 文部科学省 編「幼稚園教育要領」フレーベル館2017
- 内閣府 文部科学省 厚生労働省 編「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」フレーベル館2017
- 長谷秀揮「子供の生活と保育内容「環境」とのつながりについての一考察—幼児の園での生活と遊びから“生活科”も視野に入れて」四條畷学園短期大学紀要第 50 号, pp.20-31
- 山田千愛, 實川慎子, 高木夏奈子, 栗ひとみ, 高野良子, 小池和子「園外活動における子どもの発達を促す地域環境—散歩を通した子供の育ち—」植草学園大学紀要 第11巻 pp.53-63
- 長尾智絵「領域「環境」における「お散歩コース」をつくる試み」学校教育学会誌第24号 pp.17-24

(2023年11月23日 受領／2023年12月7日 受理)

組 ホーム 番 氏名 (学籍番号)

園外保育の計画を立てましょう

| | |
|---------------|--|
| 日時 | |
| 人数 (想定) | |
| 参加者 (想定) | |
| 主な目的地 (2か所程度) | |
| 対象年齢・ねらい | |
| 配慮事項 | |

【散歩のルート地図】

図 1. 散歩計画シート

組 ホーム 番 氏名 (学籍番号)

振り返り「ドキュメントシート」の作成

| | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| タイトル 1 | 画像 |
| 画像として残せない音についてメモがあればここに記載してください。 | 子供たちが何に気づき発見してほしかったのが下記に書きました。 |

その為どのような保育者の援助が行えるか (どのような言葉かけをしたいか) 下記に記しましょう。

図 2. 散歩後の提出レポート